

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		解剖学 (2) 単位	講師名	牧草 一人 先生
学年		1 学年	総授業時間数	時間
授業概要				
授業到達目標				
成績評価基準 評価方法				
使用テキスト		学生のための解剖・組織・発生学 (医歯薬出版)		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	①組織学・解剖学総論、方向用語 ②骨学総論：骨の数、一般性状、全身の骨、頭蓋の骨	9回目	
	2回目	①骨学各論：上顎骨、下顎骨、蝶形骨、側頭骨に重点 ②骨口蓋、副鼻腔、縫合と泉門、顎関節	10回目	
	3回目	①靴学各論：内・外頭蓋底 ②筋学（筋一般と各論）表情筋の起始・停止・作用・支配神経	11回目	
	4回目	①筋学（筋一般と各論）咀嚼筋の起始・停止・作用・支配神経 ②筋学（頭頸部の筋）開口、嚥下、頸部の三角	12回目	
	5回目	①解剖学中間テスト～骨に関する内容が中心（30分） ②骨スケッチ	13回目	
	6回目		14回目	
	7回目		15回目	
	8回目			

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		解剖学 (2) 単位	講師名	江原 大輔 先生
学年		1学年	総授業時間数	時間
授業概要				
授業到達目標				
成績評価基準 評価方法				
使用テキスト		学生のための解剖・組織・発生学 (医歯薬出版)		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目		9回目	脈管系 (総論・各論)
	2回目		10回目	
	3回目		11回目	
	4回目		12回目	
	5回目		13回目	
	6回目	消化器 (総論・各論)	14回目	
	7回目	消化器 (各論)	15回目	
	8回目	呼吸器系・発生学		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		解剖学 (2) 単位	講師名	大草 巨孝 先生
学年		1学年	総授業時間数	時間
授業概要				
授業到達目標				
成績評価基準 評価方法				
使用テキスト		学生のための解剖・組織・発生学 (医歯薬出版)		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目		9回目	
	2回目		10回目	組織学
	3回目		11回目	泌尿器系・生殖器系
	4回目		12回目	内分泌
	5回目		13回目	神経系 (総論・中枢)
	6回目		14回目	神経系 (末梢)
	7回目		15回目	感覚器系・まとめ
	8回目			

授 業 概 要 (シラバス)

科目名	口腔生理学 (1) 単位	講師名	内橋賢二 先生
学年	1 学年	総授業時間数	30 時間
授業概要	食えること、しゃべること、味わうこと、顔貌を形成すること、表情をつくることなど、他の動物には比類のない機能をヒトの口腔が担う。多様な機能をもつ咀嚼器官の動きを、口腔系諸器官構造と機能の両面から考察する。		
授業到達目標	味覚を含む口腔感覚、咀嚼運動とその基本である下顎運動のメカニズム、唾液および唾液腺の機能、発声・構音の機序および嚥下のメカニズムについての基礎的知識を習得し、理解する能力を身につける。		
成績評価基準 評価方法	レポート評価 (20%)、期末試験 (70%)、平常点 (10%) で評価する。授業への出席と受講態度の評価を平常点のみならずレポート評価に加味する。生理学を理解するためには、広範な知識の積み重ねが重要なので、レポートおよび試験結果において偏りのないことを評価に加味する。		
使用テキスト	歯科衛生士テキスト 「生理学」 学研書院		
その他 (特記事項)	参考書：最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の構造と機能、口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版		
授業計画表	1回目	歯・歯周組織の生理 ・歯の物理的に性状・歯髄の機能・歯根膜の機能・歯槽骨の機能 正常咬合の条件 ・歯冠の形態 ・誘導斜面 ・接点 ・セントリックストップ	
	2回目	下顎位と顎運動 ・下顎位 ・顎関節 ・顎運動の解析 ・顎運動の過程 ・顎運動の中枢制御 咀嚼筋と咀嚼能力 ・咀嚼筋の機能 ・表情筋の機能 ・歯列と咬合 ・咬合力と咀嚼力	
	3回目	下顎反射 ・開口反射 ・下顎張反射 ・歯根膜咬筋反射 ・緊張性歯根膜咬筋反射 口腔感覚のシステムと機能 口腔感覚の分類 ・口腔粘膜の体性感覚 ・歯髄の感覚 ・歯根膜の感覚	
	4回目	唾液・唾液腺 1 ・唾液腺の種類 ・唾液腺の組織構造と機能 ・唾液の性状	
	5回目	唾液分泌機構 2 ・唾液腺の分泌様式 ・唾液腺の分泌調節 ・唾液の役割	
	6回目	嚥下・吸嚥運動 ・嚥下反射の過程 ・嚥下運動の特徴 ・吸嚥反射 発声と構音 ・構音器官 ・発音 ・言語中枢	
	7回目	学内実習	
	8回目	まとめ	

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		薬理学・歯科薬理学（2）単位		講師名		篠原光子先生	
学年		1 学年		総授業時間数		60 時間	
授業概要		薬理学は、薬物を生態に与えた場合に生態が現す反応を研究する科学であり、臨床とも密接な関係をもっている。多くの薬物の効力発現には、科学的根拠に基づいた説明が可能である。歯科臨床における薬物療法の基礎的概念、ならびに、その応用と実際面についての必要な知識を修得する。					
授業到達目標		1. 薬物のリスクアセスメントについて理解する 2. 薬物の基本的知識を身につけ、薬物と生態と疾患の3者間の関わり合いを年頭に入れ、歯科臨床で薬物を有効にかつ安全に使用できる能力を身につける。					
成績評価基準 評価方法		講義終了後のテストにより評価する					
使用テキスト		学建書院 「最新薬理学教本」					
その他 (特記事項)							
授業計画表	1回目	総論	1. 薬理学の意義 2. 薬物療法と医療における薬物	9回目	各論 歯科薬理学	1. 局所麻酔に用いる薬物 2. 止血・凝血に用いる薬物	
	2回目	3. 薬理作用 4. 薬物の作用機序		10回目	3. 痛みに用いる薬物		
	3回目	5. 薬物の適用方法と作用動態		11回目	4. 炎症に用いる薬物		
	4回目	6. 薬物の作用を規定する因子 7. 薬物の副作用、有害作用、相互作用		12回目	5. 感染に用いる薬物 7. 免疫調節に用いる薬物		
	5回目	各論 一般薬理学	1. 末梢神経系に作用する薬物 2. 中枢神経系に作用する薬物	13回目	6. 悪性腫瘍に用いる薬物 8. 腐食薬および収斂薬		
	6回目	3. 呼吸器系・循環器系に作用する薬物		14回目	9. 歯内療法に用いる薬物 10. 歯周病に用いる薬物 11. 口腔粘膜疾患に用いる薬物 12. う蝕予防に用いる薬物		
	7回目	5. 消化器系に作用する薬物		15回目	まとめ		
	8回目	4. 緊急対応時に用いる薬物 6. 代謝系に作用する薬物					

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		栄養指導 (2) 単位	講師名	山川 知恵美 先生
学年		1 学年	総授業時間数	40 時間
授業概要		健康のもととなり、治療の一環ともされる食事と栄養を学ぶ。栄養支援の立場から、歯科疾患の予防・治療について、対象者に合わせた食生活指導及び食育方法など 講義を行う。		
授業到達目標		歯科衛生士として必要である正しい知識と共に、幅広い視野から総合的に判断し、食生活を営むことを修得する。		
成績評価基準 評価方法		単位試験		
使用テキスト		人体の構造と機能2、栄養と代謝、食品成分表		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	望ましい食生活について (・食生活指針 (6つの基礎食品) (・食事バランスガイド)	6回目	⑤ ミネラルと水の 栄養的意味
	2回目	五大栄養素の働き ① 糖質の栄養的意味	7回目	日本人の食事摂取基準 (・基礎代謝 (・栄養素の指標
	3回目	② タンパク質の栄養的意味	8回目	食生活と健康 ・国民健康栄養調査 ・国民栄養の課題
	4回目	③ 脂質の栄養的意味	9回目	ライフステージ別の 栄養と調理
	5回目	④ ビタミンの栄養的意味	10回目	・特別用途食品制度 ・代用甘味料 ・まとめ

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		生化学 (1) 単位	講師名	川崎 弘二 先生
学年		1 学年	総授業時間数	20 時間
授業概要		食物として摂取した栄養素を、私たちはどのように消化・吸収し、エネルギーを獲得し、必要な物質を合成するのかを学びます。		
授業到達目標		生命活動の概要として、生体の構成要素／生体における化学反応／糖質・脂質・タンパク質の代謝を説明できる。		
成績評価基準 評価方法		単位試験 (80%)、出席・受講態度 (20%)		
使用テキスト		最新 歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」医歯薬出版		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	生体の構成要素 (細胞の役割／生体における水／生体構成成分と栄養素)		
	2回目	生体における化学反応 (消化と吸収／酸素の運搬と二酸化炭素の排出／代謝)		
	3回目	糖質と脂質の代謝 (エネルギー代謝の全体像／糖質・脂質の代謝とエネルギーの生成)		
	4回目	タンパク質とアミノ酸の代謝 (タンパク質の加水分解／アミノ酸の代謝分解／タンパク質の合成)		
	5回目	生体における恒常性の維持 (恒常性とは／ホルモン系と自律神経系)		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		衛生学・公衆衛生学 (2) 単位	講師名	田中 秀直 先生
学年		1 学年	総授業時間数	40 時間
授業概要		授業書を基に作製したスライドを用いて講義を行い、教科書ではまかないきれない資料を提示しつつ、理解を深める。		
授業到達目標		講義の後半では、実際の国家試験問題を提示し、単位ごとの理解度を把握する。		
成績評価基準 評価方法		筆記試験およびマルチプル（選択）問題		
使用テキスト		新歯科衛生士教本「衛生・公衆衛生学」		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	第1章 総論 第2章 人口	6回目	第10章 成人・老人保健 第11章 産業保健
	2回目	第3章 環境と健康	7回目	第12章 精神保健 * まとめ
	3回目	第4章 疫学 第6章 食品と健康	8回目	模擬テスト
	4回目	第5章 感染症 第7章 地域保健	9回目	解説 国家試験（過去）
	5回目	第8章 母子保健 第9章 学校保健	10回目	総まとめ

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		口腔衛生学 (2) 単位		講師名	日吉紀子 先生
学年		1 学年		総授業時間数	60 時間
授業概要		前半に口腔の健康及び口腔疾患についての要因や予防方法等の基礎的知識を学習し、実習にて実践方法を身につける。また後半には現在のわが国での地域歯科保健活動の実際について学ぶ。			
授業到達目標		口腔衛生学に関する基礎的知識を学び、それを応用し実践する能力を身に付ける事			
成績評価基準 評価方法		単位テストおよび実習レポート			
使用テキスト		歯科衛生士テキスト口腔衛生学 口腔保健統計を含む (学建書院)			
その他 (特記事項)					
授業計画表	1回目	口腔衛生学概論	9回目	その他の歯科疾患・異常の予防	
	2回目	歯と口腔環境・歯と口腔の不潔	10回目	実習説明	
	3回目	口腔清掃	11回目	口腔衛生実習	
	4回目	う蝕の予防1 (基礎知識・予防方法)	12回目	口腔衛生実習	
	5回目	う蝕の予防2 (フッ化物によるう蝕予防)	13回目	地域歯科保健活動1 (基礎知識・地域歯科保健・母子歯科保健)	
	6回目	歯周病の予防1 (基礎知識)	14回目	地域歯科保健活動2 (学校保健歯科・産業歯科保健)	
	7回目	歯周病の予防2 (予防方法)	15回目	地域歯科保健活動3 (成人・高齢者障害者歯科保健、災害時・国際歯科保健)	
	8回目	不正咬合の予防・口臭の予防			

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		衛生統計学 (1) 単位	講師名	上根昌子 先生
学年		1 学年	総授業時間数	28 時間
授業概要		わが国の口腔保健上の特徴や問題点を様々なデータから把握、評価することができるようになることを目指して、口腔保健状況の数量化を学ぶとともに初歩的な統計的手法を実践により習得する。		
授業到達目標		歯科疾患の疾病構造や疫学的特徴を理解し、様々な疫学調査や実験データを理解できる能力を習得することを目的とする。また、歯科疾患や口腔清掃状態を評価する指標について学習し、評価できる能力を習得する。		
成績評価基準 評価方法		筆記試験（100点満点）、授業態度（授業中の発言内容）により加算あり		
使用テキスト		口腔衛生学 ―口腔保健統計を含む―		
その他 (特記事項)		四則計算程度の電卓を持参すること		
授業計画表	1回目	疫学概念、疫学が扱う事項、疫学における観察要因、疫学の方法論（記述疫学、横断研究、症例対照研究、コホート研究、介入研究）の特徴について学ぶ。また、スクリーニングについて（スクリーニングの有効性など）学ぶ。		
	2回目	う蝕に関する指標（dmf、def、DMF）について理解する。者率、歯率、歯面率、指数について学ぶ。		
	3回目	歯周疾患に関する指標について学ぶ。とくにPMA指数、CPIについては実際に評価出来る能力を身につける。また、歯垢清掃状態に関する指標を学び、評価対象に応じて適切な評価指標を選択できる能力を習得するとともに、歯垢清掃状態を評価出来る能力を習得する。		
	4回目	う蝕の疫学的特徴を理解し、過去のう蝕に関する疫学調査結果から明らかになったことを学ぶ。また、歯周疾患の疫学的特徴を理解し、歯周疾患に関する疫学調査結果から明らかになったことを学ぶ。さらに、歯科疾患実態調査結果から我が国の疾患状況の変遷および歯科保健行動の変遷等を理解する。		
	5回目	統計学の概要、データの種類を理解する。そのため簡単な各自簡単なアンケート調査を実施する。 収集したデータから比と比率（割合）について学ぶ。		
	6回目	度数分布表およびヒストグラムについて理解し、実際に収集したデータから度数分布表とヒストグラムを作成する。正規分布の特徴を理解する。また、集団の代表値（平均値、中央値、最頻値）について学ぶ。データのばらつきの指標（分散、標準偏差、範囲、パーセンタイル値）について学ぶ。		
	7回目	2つのデータの関連の検討方法について、クロス集計、平均値の比較、相関関係について学ぶ。 母集団と標本、標本抽出方法について理解する。わが国の統計の種類を学ぶ。		

授 業 概 要 (シラバス)

R4.3/24

科目名		歯科臨床概論 (1) 単位	講師名	川本達雄 先生
学年		1 学年	総授業時間数	20 時間
授業概要		「歯科医療とはどのようなことをするのか」、「歯科疾患にはどのようなものがあるのか」、「歯科患者とはどのような病気をもった人か」ということをまず示す。そして最終的には、「歯科診療において歯科衛生士にはどのような役割があるのか」を教授する。		
授業到達目標		歯科診療に必要な基本的知識の重要性を理解してもらうこと、さらには歯科臨床の場における歯科衛生士の役割を認識してもらうことが目標。歯科各領域における具体的な知識は、各歯科臨床科の講義で履修する。		
成績評価基準 評価方法		出席状況、科目単位試験の成績により判定		
使用テキスト		歯科臨床概論(医師薬出版)		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	歯科医療の概要： 歯科予防処置、歯科診療、歯科保健指導、療養上の指導、公衆衛生活動		
	2回目	医の倫理： 人の尊厳・人権・個人情報の尊重、患者・家族と医療従事者との関係 歯科医療の特殊性、患者への対応、医療事故の防止		
	3回目	歯科臨床の基礎知識： 口腔診査 、消毒と滅菌、歯科材料 歯科診療の流れ		
	4回目	エックス線診査と臨床検査法： エックス線応用の意義、放射線の基礎知識、エックス線撮影装置の種類 放射線防護、臨床検査の意義、主な検査法		
	5回目	歯科臨床： 歯科保存学、歯科補綴学、口腔外科学、小児歯科学、矯正歯科学・・・		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		保存修復学 (1) 単位	講師名	岩崎 和恵 先生
学年		1 学年	総授業時間数	28 時間
授業概要		パソコンを用いた講義を行い、テストにより理解度をチェックする。		
授業到達目標		齲蝕をはじめとする歯の硬組織疾患の特徴、病因および診断・治療法を理解する。		
成績評価基準 評価方法		期末試験（MCQおよび記述式）100点満点で60点以上を合格とする。		
使用テキスト		最新 歯科衛生士教本：保存修復学・歯内療法学		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	歯の保存治療法とは 1.歯の保存療法の種類を説明する。 2.口腔検査を説明する。		
	2回目	保存修復の概要 1.保存修復学を説明する。 2.窩洞と保存修復治療を説明する。 3.保存修復治療の概要を説明する。		
	3回目	4.保存修復治療の準備を説明する。 5.歯の切削，窩洞形成を説明する。		
	4回目	6.歯髄の保護を説明する。 7.保存修復法の種類を説明する。		
	5回目	直接修復 1.コンポジットレジン修復を説明する。 2.セメント修復を説明する。		
	6回目	間接修復 1.インレー修復を説明する。 2.ベニア修復を説明する。 3.合着材および接着材を説明する。		
	7回目	ホワイトニング 1.ウォーキングブリーチ法を説明する。 2.オフィスブリーチ法を説明する。 3.ホームブリーチ法を説明する。		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		感染予防 (1) 単位	講師名	高杉 典史 先生
学年		2 学年	総授業時間数	16 時間
授業概要		歯科医療は出血を伴う外科的治療が多く、エアロゾルの発生頻度も高いことから感染リスクが高い。そのため、安全に歯科医療を行えるように感染予防対策は重要である。感染予防の授業では、感染が起こる原因について理解し、感染予防の概念およびその具体的方法について学ぶ。		
授業到達目標		院内感染について理解し、その予防策を臨床の場で正しく実践できる能力を習得する		
成績評価基準 評価方法		出席状況、授業態度および単位試験により総合的に合否を判定する。		
使用テキスト		歯科医療における国際基準 感染予防対策テキスト滅菌・消毒・洗浄 (医歯薬出版)		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	患者主体の感染予防対策 感染予防対策の基本		
	2回目	歯科医療における滅菌消毒洗浄 歯科医院における感染予防対策		
	3回目	歯科医院における感染予防対策の実際 歯科医療従事者の感染予防対策		
	4回目	微生物学と感染症の基礎知識 疾患別感染予防対策		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		高齢者・有病者歯科学 (1) 単位	講師名	小正裕先生・右遠英悟先生
学年		2 学年	総授業時間数	16 時間
授業概要		日本は急速な高齢化に伴い高齢社会を避けることができません。それならば、高齢者が健康な状態で長生きをしてくれなければ、これはまさに国民全体にとって悲劇的であります。そのためにも、高齢者の口腔ケアというものに、貢献することによって歯科衛生士としての使命を果たさなければなりません。高齢者は全身的、心理的および社会的状態においても、一般成人と同列に扱うことはできません。社会の急速な高齢化に伴い、歯科治療を受ける高齢者は急激に増加することが予想され、歯科衛生士にとって高齢者の特徴を理解しておくことは必要不可欠です。		
授業到達目標		歯科衛生士として必要な高齢者の知識を習得するとともに、高齢者に対する口腔ケア、歯科診療の介助、さらに、寝たきり高齢者への訪問診療による口腔ケア指導ならびに対応について習得する。		
成績評価基準 評価方法		出席状況と筆記試験		
使用テキスト		歯科衛生士のための高齢者歯科学 永末書店		
その他 (特記事項)		参考書 新歯科衛生士教本「高齢者歯科」 医歯薬出版社		
授業計画表	1回目	高齢社会と高齢者歯科学		
	2回目	加齢と老化 高齢者の口腔疾患		
	3回目	高齢者の口腔ケア 要介護高齢者の口腔ケア		
	4回目	訪問歯科診療 口腔機能リハビリテーション		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		歯科麻酔学 (1) 単位	講師名	安留輝之 先生
学年		2 学年	総授業時間数	16 時間
授業概要				
授業到達目標				
成績評価基準 評価方法				
使用テキスト				
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	概論、全身麻酔法		
	2回目	局所麻酔法、精神鎮静法		
	3回目			
	4回目			

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		歯科麻酔学 (1) 単位	講師名	金田一弘 先生
学年		2学年	総授業時間数	16 時間
授業概要		歯科麻酔学とは、歯科治療や手術中の痛みを取り除くだけでなく、安全で快適な歯科医療を行うための全身管理学である。歯科治療時やスケーリング中にも全身的偶発症が発生する可能性がある。歯科衛生士にも血圧や脈拍などのバイタルサインの評価、救急蘇生を含む緊急時の対応について講義を行う。		
授業到達目標		歯科麻酔学の基礎を理解すると同時に、歯科治療における全身管理診療補助行為ができる		
成績評価基準 評価方法		100点満点 60点以上。合格。一次救命処置実習試験 100点満点 100点合格。両試験に合格すること		
使用テキスト		歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目			
	2回目			
	3回目	・バイタルサイン・生体情報モニターの読み方 ・有病者の歯科治療における注意点		
	4回目	・歯科治療時の全身的偶発症 ・救急救命処置（一次救命処置）		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		衛生行政・社会福祉（ 2 ）単位	講師名	高山由希 先生
学年		2学年	総授業時間数	32 時間
授業概要		歯科衛生士という職種の社会の中での役割を行政システムや法令などを通して知り、社会人として生きることを自覚しながら、歯科衛生士を取り巻く行政、社会保障システム、法律などを学ぶ。		
授業到達目標		・衛生行政とは何かを理解する ・社会保障について知り、その目的とシステムを理解する ・社会保険制度について知り、その運営方法を理解する ・歯科衛生士法および保健医療を取り巻く法律を知り、主な内容を理解する		
成績評価基準 評価方法		単位試験・提出物のレポート点		
使用テキスト		歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	・衛生行政概論		
	2回目	(国際的な) 社会保障制度の沿革と現状		
	3回目	社会保険制度		
	4回目	社会福祉と法律について		
	5回目	歯科衛生士に関連する法令について 医療保険制度について		
	6回目	地域保健① 保健所と地域保健センター 歯科衛生士との関わり		
	7回目	地域保健② 健康日本21 (第二次) 健康増進法・地域保健法等		
	8回目	まとめ		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		社会保険・歯科用語 (1) 単位	講師名	加藤直里 先生
学年		2 学年	総授業時間数	28 時間
授業概要		保険治療及び請求のための用語の説明と解釈		
授業到達目標		保険治療に使用されている用語を理解することにより歯科衛生士として歯科医の指導のもと、良い治療を提供する。		
成績評価基準 評価方法		試験で60点以上の得点及び出席状況など総合的に判定する。		
使用テキスト		自作及び関係資料を引用		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	社会保険の概要、用語説明		
	2回目	保険診療の流れ、衛生士の業務範囲について、診療録及び診療報酬明細書の略称用語説明		
	3回目	保存治療関係の用語説明		
	4回目	歯周治療関係の用語説明		
	5回目	補綴治療関係の用語説明		
	6回目	外科治療関係の用語説明		
	7回目	全体のまとめ		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名	歯科放射線学 (1) 単位	講師名	木原卓司 先生
学年	2 学年	総授業時間数	24 時間
授業概要	医学におけるエックス線の有用性と、その利用の現況を解説すると共に、エックス線の人体への影響の発生の危険性と、その防護法について解説する。		
授業到達目標	エックス線が人間の五感に感じないことから、歯科エックス線診療の現場では、必要以上に怖がったり、逆に大胆になり過ぎたりと、少なからず混乱が生じている。そこで、エックス線についての正しい知識を身に付け、患者に不安をあたえないよう適切に行動できるようにする。		
成績評価基準 評価方法	筆記試験		
使用テキスト	最新 歯科衛生士教本 歯科放射線		
その他 (特記事項)			
授業計画表	1回目	ビデオ(暮らしの中の放射線)による導入 エックス線の発生・エックス線の一般的性質・エックス線の減弱 エックス線発生装置	
	2回目	エックス線撮影法 □内法：等長法、平行法、咬翼法、咬合法 □外法：パノラマエックス線撮影法 記録系：エックス線フィルム	
	3回目	写真処理(現像法) 正常像 撮影部位の判別	
	4回目	病的像：エックス線診断 放射線障害(影響)①分類	
	5回目	放射線障害(影響)②障害(影響)発生のRisk(危険度) 放射線防護	
	6回目	□内法撮影相互実習	

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		歯科器材材料学 (1) 単	講師名	中井 真理子先生
学年		2 学年	総授業時間数	20 時間
授業概要		生体材料、歯科生体材料および歯科材料の概要を理解する。 歯科生体材料の基礎知識、種類、性質およびそれらに関わる理論を理解し、説明できるようにする。		
授業到達目標		1.生体材料の概要と必要な性質、それらの生体内での様々な変化を理解する。 2.歯科生体材料の基礎知識を習得し、生体や環境との関わりを考え理解する。 3.顎機能・咀嚼障害の治療に必要な生体材料の種類と性質を理解する。 4.歯科で用いられている器械の種類と性質を理解する。		
成績評価基準 評価方法		単位試験 出席状況、授業態度（場合により小テスト）等の他の評価項目		
使用テキスト		新歯科衛生士教本 歯科材料、歯科機器 全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	総論：歯科材料と歯科衛生士、歯科衛生士に関わる材料		
	2回目	各論：印象材、石膏		
	3回目	各論：成形修復材料、仮封材・暫間修復材料		
	4回目	各論：ワックス、金属、陶材		
	5回目	各論：その他歯科材料、歯科器械		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名	微生物学・口腔微生物学(2)単位		講師名	円山 由郷 先生
学年	1 学年		総授業時間数	60 時間
授業概要	本科目では、授業、実習を通して、我々の身の回りに存在する様々な微生物の種類や性質について学習する。また、全身及び、口腔領域の感染症が引き起こされる仕組みについて学び、それらの原因微生物についての基礎的な知識を習得する。さらに、院内感染の防止や感染防御、滅菌、消毒など歯科衛生士に必要な技術や理論を学ぶ。			
授業到達目標	①身の回りの微生物についての基礎的な知識をもつ。 ②患者さんに口腔感染症の原因と予防について分かりやすく説明できる。 ③歯科医師、他の歯科衛生士と口腔感染症についてディスカッションできる。 ④院内感染の予防についての正確な知識をもつ。			
成績評価基準 評価方法	試験で評価する。			
使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学(医歯薬出版)			
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	微生物の分類、細菌	9回目	口腔細菌など
	2回目	細菌の特徴と分類	10回目	口腔細菌など
	3回目	ウイルス	11回目	まとめ、補足
	4回目	感染経路、標準予防策	12回目	実習
	5回目	滅菌・消毒、抗菌薬	13回目	実習
	6回目	真菌	14回目	実習
	7回目	免疫	15回目	実習
	8回目	免疫		

1. 4/14 (円山) 微生物の分類、細菌
2. 4/21 (円山) 細菌
3. 5/12 (円山) ウイルス
4. 5/19 (*真下) 感染経路、標準予防策
5. 5/26 (真下) 滅菌・消毒、抗菌薬
6. 6/2 (*円山) 真菌
7. 6/9 (真下) 免疫
8. 6/16 (真下) 免疫
9. 6/23 (南部) 口腔細菌など
10. 6/30 (南部) 口腔細菌など
11. 7/7 (円山) まとめ、補足

2.

実習：全日2回 (@樟葉)

7/14 (円山、真下、南部)

7/21 (円山、真下、南部)

授 業 概 要 (シラバス)

44期

科目名		生物学 (2) 単位	講師名	橋 淳治 先生
学年		1 学年	総授業時間数	30 時間
授業概要		歯科衛生に係る生物学の基礎を学び、ヒトの健康、医療、衛生（特に歯科衛生）について生物学的な観点から知識の習得と自ら考察できる人材の育成を目指す。		
授業到達目標		生命とその基本となる細胞、組織、器官についての構造と機能について理解する。 生命の連続性について、遺伝と遺伝子、生殖と発生の観点から理解する。 環境と応答について、神経とホルモンの観点、個体の恒常性の観点から理解する。		
成績評価基準 評価方法		定期試験を中心に、授業中の課題、レポート課題を含めて総合評価を行う。		
使用テキスト		川合新二郎ほか(2008)：最新歯科衛生士教本「生物学」，医歯薬出版株式会社，ISBN978-4-263-42831-3，2,000円（税別）		
その他 (特記事項)		主にプレゼンテーションツール（パワーポイント）を用いた授業を行う。 授業用のノートを1冊作り、テキストを見ながら講義内容をノートにまとめること。		
授業計画表	1回目	地球の歴史と生命の誕生 化学進化と生物進化		
	2回目	生命の最小単位である細胞 細胞の構造と機能 組織と器官		
	3回目	生物の生殖方法 遺伝（特にメンデル遺伝）と遺伝子・染色体		
	4回目	遺伝子と遺伝物質（DNA・RNA） 遺伝子の複製・転写・翻訳		
	5回目	遺伝情報とその発現 生物の発生		
	6回目	刺激と受容と反応 神経とホルモンによる恒常性の維持		
	7回目	生体防御 動物の行動とヒトの行動		
	8回目 90分	まとめと演習		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		化学 (2) 単位	講師名	小玉晋太郎 先生
学年		1 学年	総授業時間数	30 時間
授業概要		歯科医療人として必要となる化学の基礎知識を解説する。		
授業到達目標		物質の化学変化が私たちの生活や健康にどのように関わっているかを理解するとともに、化学的な思考法を身につける。		
成績評価基準 評価方法		テストのみ		
使用テキスト		なし		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	化学序論		
	2回目	物質量と化学結合		
	3回目	気体と溶液		
	4回目	酸と塩基		
	5回目	酸化と還元		
	6回目	無機化合物		
	7回目	有機化合物		
	8回目 90分	高分子化合物、まとめ		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		心理学（臨床心理学）（1）単位	講師名	藤野遼平 先生
学年		1 学年	総授業時間数	16 時間
授業概要		心理学，とくに臨床心理学が培ってきた他者理解や対人関係に関する知識を身に着け，それを職業生活において応用できるようワークショップやディスカッションも交えて知見を深める。		
授業到達目標		対人援助職の専門家として，自分の心の動きや他人の心の動きに意識的になり，それに対して適切な対処を行うことができるようになることを目標とする。		
成績評価基準 評価方法		出席状況およびレポート形式の試験		
使用テキスト		特に指定なし（授業ごとにレジュメを配布）		
その他 （特記事項）		ディスカッションによる体験的理解が大切ですので，積極的に自分から発言して主体的な学びの体験を得てほしいと思っています。		
授業計画表	1回目	オリエンテーション（カウンセリングとは何か？ 心理学とくに臨床心理学とはどのような学問体系なのか？） 人の話を聞くことの難しさの体験（ワークショップとグループディスカッション）		
	2回目	カウンセリングにおける各流派やその理論体系 カウンセリングにおける技法 および見立て方針のためのアセスメント紹介		
	3回目	人の心における「正常」と「異常」とは一体なんだろうか（グループディスカッション） 心の病とその正しい理解		
	4回目	人間関係をどのように理解すればよいのか（社会心理学の立場から） 人が発達してゆくとはどういったことだろうか，どのように理解すればいいのだろうか（発達心理学の立場から）		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		コミュニケーション論 (1) 単位	講師名	村田まゆみ 先生・新ありさ 先生 石井重基 先生
学年		3 学年	総授業時間数	16 時間
授業概要		「ホスピタリティとは何か」という基本的な問題から入り、DOSからPOSへと移行している医療現場で真に必要な「コミュニケーション能力」を持ったDHとしての考え方やスキルの習得を、講義とロールプレイングを通じて目指す。		
授業到達目標		歯科医療の現場でのコミュニケーションの大切さを理解し、円滑なコミュニケーションをはかる為のスキルを習得する。		
成績評価基準 評価方法		出席・提出物		
使用テキスト		「コミュニケーション論」 アシスタント (株) 発行		
その他 (特記事項)				
授業計画表	1回目	基本マナーの復習 医院で必要とされているコーディネーターとしての働き		
	2回目	コミュニケーションタイプ 環境を整える ーコミュニケーションをとるためにー		
	3回目	視覚に訴える ーツールの重要性ー 傾聴のスキル① ・ポジショニング・アイスブレイク・傾聴のポイント		
	4回目	傾聴のスキル② ・質問方法・メッセージの出し方 コミュニケーション・ロールプレイング		

授 業 概 要 (シラバス)

光永

科目名		教育学 (1) 単位	講師名	(西田) 亜希子 先生
学年		1 学年	総授業時間数	16 時間
授業概要		歯科衛生士の大切な役割のひとつとして、患者に対して行う教育的指導がある。高等教育を受けた医療専門職として、医療現場において子どもから老人まで広く指導や援助が出来るよう、教育学的素養に触れる。そして医療現場に立つ自分をイメージしながら考察を深めてもらう。		
授業到達目標		歯科においては、子どもに対してだけでなく、若年の歯科衛生士から年輩に接することも多い。そこでまず「教育」は学校のものというイメージから脱却する。次に「教育」は一方的な大人から子どもへの教えこみでなく、双方向かつ幅広い営みであることを理解する。さらに「教育」のあり方が、みんなが受け入れられる医療の仕組みを作る上での参考になることを意識できるようになることを目標とする。		
成績評価基準 評価方法		最終レポート：60%、講義終了後のコメントシート：かく10%×4回＝40%		
使用テキスト		なし		
その他 (特記事項)		医療現場では、大切だと思う情報を、自分で書き留め、まとめることが必要となります。そのためにも「ノートテイキング」が大切です。レジュメ(授業のまとめ)の配布はあえて控えますので、板書や話していることから、自分でノートを組み立て、将来に向かっての練習にしてください。		
授業計画表	1回目	「教育」とは一語源から考える		
	2回目	「子ども」と「教育」ー子どもであり、大人である立場から考える		
	3回目	「教育」という仕組みー医療現場への応用を意識する		
	4回目	「教育」に携わるー歯科衛生士というプロ予備軍として考える		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		文学 (1) 単位	講師名	北瀬 千穂 先生
学年		1学年	総授業時間数	16 時間
授業概要		歯科衛生士として様々な場面で必要となる「日本語の力」の向上を目指します。基本的な日本語の知識を復習した上で、より実践的なコミュニケーションの場で必要となる口語表現と文章表現について学び、実習から就職活動に至るまでの各場面で役立つ日本語能力を身につけます。		
授業到達目標		漢字や敬語など日本語の基礎知識の習得と、正しい日本語表現の理解を第一目標とする。それを基にした上で、適切かつ自分らしい表現で話したり書いたりすることができることを目指す。		
成績評価基準 評価方法		授業での提出物（課題）と発表を点数化します		
使用テキスト		なし（必要資料を配布します）		
その他 (特記事項)		授業中に配布した課題は、必ず次の授業までに作成し提出すること。		
授業計画表	1回目	日本語の基本的な知識（漢字・熟語・敬語）・実習のお礼状の書き方		
	2回目	ドキュメンタリーを視聴し自分の意見を文章にまとめる・グループ討論		
	3回目	コミュニケーションの基本（言葉選び・接遇用語）・説明の仕方		
	4回目	発表・まとめ		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		社会福祉論 (1) 単位	講師名	中山 徹 先生
学年		3 学年	総授業時間数	16 時間
授業概要		少子高齢化・人口減少時代により惹起する社会福祉問題と社会福祉制度について教授する。また、医療・介護サービスに関する社会福祉制度と今日の政策課題である「地域包括ケアシステム」について講義する。		
授業到達目標		1. 社会福祉制度全体について、その理念、役割について理解する。 2. 社会福祉の歴史を知り、その社会的背景について理解する。 3. 現代社会の生活課題と社会福祉制度について理解する。 4. 少子高齢化・人口減少社会の課題と展望について理解する。		
成績評価基準 評価方法		40% 出席状況、受講態度、試験の結果から総合的に評価する。 60% 小テスト + レポート 1枚〜2枚		
使用テキスト		必要に応じて、プリントを配布する。参考文献は授業中に紹介する。		
その他 (特記事項)		普段から、少子化・高齢化によって生じている生活問題について、新聞、テレビ等の報道に関心を持ち、調べてみましょう。		
授業計画表	1回目	*少子高齢化社会を考える基礎 ①少子高齢化社会の実相 ②社会保障と社会福祉 ③社会福祉の歴史		
	2回目	*少子高齢化社会における生活問題 ①高齢者の生活課題 ②「貧困」と新たな「生活困窮者」問題		
	3回目	*少子高齢化社会の福祉制度 ①医療・介護保障の現状（一体改革）と課題 ②医療・介護等マンパワーの現状対策		
	4回目	*少子高齢化の展望と課題 ①「地域包括ケアシステム」の構築 ②少子高齢化社会のまちづくり		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		英語 I (1) 単位	講師名	岡 隼人 先生
学年		1 学年	総授業時間数	16 時間
授業概要		外国人患者に英語で対応する機会が増えている今日において、その技能を身に付けることは重要である。本授業はその基本的なものを精選して、チェアサイド実習も交えながら学ぶ。		
授業到達目標		外国人患者に対して英語で呼び出し、案内をして、簡単な問診等ができるようになること。また、外国人患者からの回答を聴き取り理解できるようになること。		
成績評価基準 評価方法		筆記試験70%、実技試験30%の計100点満点 受講態度で点数の加減もある。		
使用テキスト		『ロールプレイングでわかる歯科英語—17レッスンで鍛える表現力』(浪速社)		
その他 (特記事項)		授業外の質問は次のメールアドレス宛に：oka-h@cc.osaka-dent.ac.jp		
授業計画表	1回目	英語で自己紹介、テキストの使い方、Scene 1: 呼び出し、案内、スモールトーク 英語で他者紹介、Scene 2: 問診1		
	2回目	英語で他者紹介、Scene 3: 問診2、問診実演 リスニング練習、Scene 4: 基本動作、Scene 5: 口腔ケア習慣を尋ねる1		
	3回目	Scene 6: 口腔ケア習慣を尋ねる2、口腔ケア習慣に関する問診の実演 実技練習：Scene 1～6のチェアサイド実習		
	4回目	Scene 7: 歯磨き指導 実技試験：Scene 1～6チェアサイド実技試験		

授業計画書

【昼間部】 3 年

科目名		Dental School English			
授業のねらい・学期の達成目標				授業概要と進め方	
To Learn basic English communication and Vocabulary and language related to Denistry and dental hygiene.				Each class will include listening exercises, vocabulary study/reading, and speaking activities.	
実施日 回数		授業スケジュール		時間	各回の到達目標
1	12/18	Introductions/greetings/aDPointiner		3	¹ Meeting people. Making appointments, telephone English
2	1/8	Problems and advice. Dentists Offic		3	Describing general problems/giving advice. Waiting at the dentists office
3	1/15	Medical and dental problems. Instru		3	Describing medical and dental problems. Dentists and Hygienists instructions
4	1/22	Describing people. Review		^s 3	Talking about people. Dental language review
5				3	
6				3	
7				3	
8				3	
9				3	
10			1	3	
11				3	
12				3	
13				3	
14				3	
評価の方法：授業内で3回以上の試験実施		追試詳細		達成度評価	使用教材
授業内テストにより評価					プリント

授業計画書

Osaka Dental Hygienist College

科目名	Dental School English	クラス		講師名	
授業のねらい・学期の達成目標			授業概要と進め方		
To Learn basic English communication and Vocabulary and language related to dental hygiene.			Each class will include listening exercises, vocabulary study/reading, and speaking activities.		
実施日 回数	授業スケジュール		時間	各回の到達目標	
1	1/13	Introductions/greetings/appointments	3	Introductions, Meeting people. Making appointments for the dentist	
2	1/20	Problems and advice. Dentist's Office	3	Describing general problems/giving advice. Waiting at the dentist's office, Dental Vocabulary	
3	1/27	Medical and dental problems. Instructions	3	Describing medical and dental problems. Dentist's and Hygienist's instructions	
4	2/3	Describing people. Review	3	Talking about people. Dental language review	
評価方法		授業内で3回以上の試験実施		追試詳細	達成度評価
授業内テストにより評価					使用教材
					プリント

授 業 概 要 (シラバス)

H27.10 22

科目名		歯科隣接医学 (1) 単位	講師名	大久保 直 先生
学年		2 学年	総授業時間数	20 時間(12 時間)
授業概要		歯・口腔領域は全身の一部であり、全身疾患と相互に影響を及ぼすことがある。また、高齢化社会の進行とともに、全身疾患を有する患者の歯科診療の機会が増加しており、歯科衛生士にとっても全身疾患の基礎知識を理解することは重要である。そこで、歯科医療に関連の深い全身疾患を中心に講義する。		
授業到達目標		歯科と関連の深い全身疾患について理解する。		
成績評価基準 評価方法		テスト		
使用テキスト		歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック (デンタルハイジーン別冊)		
その他 (特記事項)		特になし		
授 業 計 画 表	Dr. 大久保	1 回目	全身疾患と口腔疾患 (総論)、血液疾患・出血性素因、感染症、肝臓疾患、腎臓疾患	
	Dr. 大久保	2 回目	循環器疾患、呼吸器疾患、<u>消化管疾患</u>、甲状腺疾患	
	Dr. 澤村	3 回目	<u>糖尿病</u>、脳血管障害、神経疾患、リウマチ・アレルギー性疾患、心身症	
		4 回目		
		5 回目		

授 業 概 要 (シラバス)

科目名		歯科隣接医学（精神医学）（1）単位	講師名	和田 央 先生
学年		2 学年	総授業時間数	20 時間（8 時間）
授業概要		精神障害、知的障害の概要について知る		
授業到達目標		上記の障害を持つ方への適切な対応を知る		
成績評価基準 評価方法		小テスト		
使用テキスト		テキスト、プリントを使用・スライド使用		
その他 （特記事項）				
授業計画表	1回目	精神疾患の概要について（症状、診断、治療、かかわり方）		
	2回目	個々の精神疾患について（統合失調症、うつ病、認知症、知的障害まで）		
	3回目			
	4回目			
	5回目			

授 業 概 要(シラバス)

科目名	歯科介護学(1)単位	講師名	平林潤子 先生
学年	3年生	総授業時間数	24時間
授業概要	高齢者を取り巻く社会情勢は、高齢者が地域を拠点に生活する方向に目まぐるしく変化してきている。そうした中、歯科衛生士への期待は増大し、保健・医療・福祉の共有の生活場面が多くなり、各種専門職の連携が重要となってきた。 歯科介護学では、高齢者の多様なニーズに対応できるよう健康上の問題を解決する専門的援助について学ぶことを目的とする。		
授業到達目標	1. 高齢者の動向・福祉・保険について理解する 2. 高齢者の特徴、および加齢に伴う身体的変化について理解する 3. 健康問題(障がい)・高齢者支援(治療)過程を理解し、高齢者のQOLに向けた援助の必要性が理解できる。 4. 高齢者に必要な生活援助技術が習得できる。		
成績評価基準 評価方法	筆記試験、出席状況、学習態度、提出物などで評価する。		
使用テキスト	資料		
その他 (特記事項)			
授業計画表	1回目 180分	1. 歯科衛生士が介護を学ぶ意味 2. 介護の対象 3. 高齢者の動向と福祉の変遷 3. 医療保険・介護保険 4. 介護保険のしくみ 5. 介護保険と歯科衛生士	
	2回目 180分	1. 介護保険と歯科衛生士 2. 歯科診療時介護に必要な移動・移乗の援助 1) ボディメカニクス 2) 歩行介助 3) 杖 4) 白杖 5) 車椅子	
	3回目 180分	1. 介護の実践：エイジレスセンターの見学 1) 見学・体験を通して、高齢者の身体的、精神的、社会的特徴の理解。 2) 介護保険の使い方 3) 福祉器具の利点と注意点 4) 高齢者への日常生活援助を、歯科衛生士として具体的に考える。 5). 高齢者をとりまく安全な環境づくり。	
	4回目 180分	1. 老年期における発達課題 2. 身体の高齢性変化 3. 高齢者のアセスメント 4. 高齢者に起こりやすい症状： 1). 老年症候群 2) ロコモティブシンドローム 3) サルコペニア 4) フレイル 5) 廃用症候群	
	5回目 180分	1. 認知症の基礎理解 2. 認知症高齢者とのコミュニケーションのとり方 3. 在宅介護の実践 4. 在宅介護の問題点 5. 高齢者と虐待	
	6回目 180分	1. 在宅介護の実践と問題点 2. 高齢者と虐待 3. 終末期医療とは 4. 在宅死とは 5. 歯科衛生士と終末期医療 6. まとめ	

授 業 概 要 (シラバス)

科目名	口腔リハビリテーション医学(1) 単位	講師名	前田留美子 先生
学年	3学年	総授業時間数	16 時間
授業概要	高齢化社会の訪れとともに、摂食・嚥下のリハビリテーションに対する期待はますます高まりつつあります。疾患や加齢に伴う機能低下による摂食・嚥下障害を理解し、リハビリテーションを効果的に進めるためのポイントについてお話しします。		
授業到達目標	① 嚥下に関わる部位の解剖 ② 正常嚥下のメカニズム ③ 評価や訓練 について理解する。		
成績評価基準 評価方法	小テスト 評価 パン-ホワイラー 使用		
使用テキスト	プリント配布 参考図書「動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション」中山書店		
その他 (特記事項)			
授業計画表	1回目	嚥下にかかわる部位の解剖について	
	2回目	正常嚥下のメカニズムについて	
	3回目	観察と情報収集 スクリーニングテスト 練習 ロールパン セリー コンシヤクセー 同一内容 使用 予備金も同じ 学校のみ23	
	4回目	VF・VE検査 間接訓練・直接訓練 2人1組233	

口腔機能・摂食訓練法 内容の流れ

大阪歯科衛生士専門学校 2024

(9階 教室)		(3階基礎実習室)		(8階小講義室右・4階臨床実習室)	
項 目	内 容	項 目	内 容	項 目	内 容
1、医療人としての基本姿勢	①ICFについて学ぶ ②支援者としての接し方を学ぶ	1、口腔機能とは	①高齢者に口腔機能評価を行う目的や社会的背景を知る ②オーラルフレイル、口腔機能低下症について理解する ③口腔機能及びその評価の目的、評価方法を理解する	1、歯科衛生士の評価	①「口腔健康管理」「改訂BDRの指標」を理解する ②事例から 長期目標、短期目標を学ぶ ③口腔清掃用具の用途別使用目的を知る ④口腔ケアの手順を記入
2、要介護者の理解の支援	①高齢者の状態の変化について理解する ②摂食嚥下の理解と介助方法を知る ③さまざまな体位を知る	2、口腔機能の評価方法を理解する	①オーラルディアドコキネスについて理解する ②RSSTについて理解する	2、口腔ケアの相互実習 (チェア室に移動)	①マナボットを使用しデモンストレーション ②相互実習 ・チェアでポジショニングを体験する ・粘膜清掃・歯面清掃 ・舌清掃・義歯清掃
3、バイタルサインの理解と具体的手法の把握	①バイタルチェックの方法を理解する ②バイタルチェックを実施する	3、口腔機能評価相互実習	①相互実習 ②結果を評価		③吸引の手順を知る

< 授業時間割 >

A・B・Cの3班に分かれ、講師3人の授業を受ける。試験はA・B・Cの3班全体で受ける。

担 当				
7月26日	午前	A班	C班	B班
	午後	B班	A班	C班
7月27日	午前	C班	B班	A班
	午後	全体 (A・B・C班)		

私のスケジュール (先生 教室) ➡ (先生 教室) ➡ (先生 教室)

授 業 概 要 (シラバス)

科目名	情報処理 (1)単位	講師名	佐藤 衆一 先生
学年	3学年	総授業時間数	16時間
授業概要	ITは現代の生活で欠かせないものになり、社会にとってもIT技術を前提としたシステムの構築が広がってきています。医療においても、情報機器やネットワークを活用して情報を収集・評価・管理・利用する能力は必要不可欠です。インフォメーション・リテラシーを習得し、医療における倫理やセキュリティ対策の重要性を理解することを目指します。		
授業到達目標	インフォメーション・リテラシーを正しく理解し、活用できるようになる。歯科衛生士としての医療情報倫理が理解できるようになる。患者情報のセキュリティ対策の重要性が理解できるようになる。PCを使った業務の基礎技術を活用できるようになる。		
成績評価基準 評価方法	試験とレポート		
使用テキスト	なし		
その他 (特記事項)	途中入室/退室の必要がある場合は申し出て下さい。		
授業計画表	1回目	1. 本授業の概要 2. 情報と情報処理 3. コンピュータの仕組み 4. ネットワークとインターネットの仕組み	
	2回目	1. 医療とコンピュータ 2. データベース技術 3. 情報セキュリティ 4. 機械学習	
	3回目	1. 情報倫理 2. 医療情報倫理 3. 患者情報のセキュリティ保護 4. 医用に活用するコンピュータ技術	
	4回目	1. インターネットと医療情報 2. 薬剤・材料についての情報収集法 3. 表計算ソフト(1)データ管理 4. 表計算ソフト(2)グラフツール	